

大和心を人間わば



教育随想

長野県佐久市

市長 柳田 清二 氏

母校、野沢北高校の校章は、山桜もモチーフにしています。その山桜とは、本居宣長の『敷島の 大和心を 人間わば 朝日に匂う山桜花』に詠われている山桜がモデルなのです。

文化勲章を受章した文芸評論家の小林秀雄は、この本居宣長の歌の解説をしています。

この歌に用いられている「匂う」という言葉はとても難しい言葉だとしています。元々は「色が染まる」という意味で、旅人が旅寝をする袖に萩の花の色が染まることを「萩が匂う」と表現することもある。「照り輝く」という意味もあるし「香に匂う」という表現もある。つまり触覚、視覚、臭覚にも及ぶ言葉だと解説しています。そして『朝日に匂う山桜花』と歌っているのだから山桜の味わいがわからなくてはならないと忠告しているのです。

私は、母校の校章に秘められたメッセージを紐解くような思いから山桜を訪ねてみました。私たちがよく目にする染井吉野は、公園や学校にまとまって植えられています。そしてそのボリューム感に圧倒されています。ともすればそのボリューム感を美しいと捉えているのかもしれませんが。

しかし、山桜は違うのです。山桜は群生していません。山の中に一本で咲いているのです。山の中ですから愛でる人もいません。しかし、朝日に照らされその光に向かって懸命に咲くのです。「ああ。これがメッセージだったんだ。」と私はこの歌が胸に落ちたのでした。

日本人の心とは、山の中でも一本でも美しく咲く山桜の如く、誰が見ていなくとも誠実に懸命に生きていくというメッセージであるように感じました。



(やなぎだ せいじ)

私はこの出来事にいたく感激をし、遙か先輩からのメッセージとして大切にしています。そして、佐久市の公共施設の植栽選びの際、出来る限り山桜を選んでいきます。

その心は、市長として未来の佐久市民へ秘めたるメッセージを込めているのです。



令和6年10月1日

10月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
長野県佐久市 市長 柳田 清二 氏	
この人に聞く……………	2
あいち橋の会 宮川 洋一 氏	
羅針盤……………	2
福岡小学校 校長 磯村 彰久	
ふれあい……………	3
新香山中学校 教諭 藤渕 俊旭	
特集……………	4
岡崎に残る山城跡	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
地域からの贈り物栽培用温室 (平成7年)	
この本を……………	8



橋を介して人とつながる にぎわいをつくる

あいち橋の会 宮川 洋一氏

宮川さんが桜城橋さくらぎょうにいと、橋を行き来する方々から「宮川さん、こんにちは」と声がかかる。乙川でくんだ水を使って橋を拭く「桜城橋ふき」の主催者である宮川さんは、橋梁の専門知識をもつ県職員である。そして、休日には県内外の橋巡りを楽しむ橋の愛好家だ。

「宮川さんが『桜城橋ふき』を始めたきっかけを教えてください」

私が初めて橋に関わる市民活動を企画したのは殿橋を洗うことでした。かつて殿橋は市の中心街活性化構想の中で、架け替えの危機がありました。まちの橋には、架けられた背景やその時代特有の工法、デザインなど、歴史や文化が表れています。そうしたその橋固有の価値やよさを

市民の皆さんが知っていれば、今後、簡単に橋を架け替えることにはならないはずです。多くの方に橋のよさを知ってもらいたいと思って行ったのが「殿橋洗い」です。

参加した皆さんは「殿橋の歴史を知ることができてよかった」、「自分の手で橋を磨くことで橋に愛着が生まれた」と笑顔で話してくれました。

このことがきっかけで、額田の木材を使った桜城橋が乙川に架けられたときに始めたのが、「桜城橋ふき」です。新しく架かった橋が人々に永く愛されるように、私も市民の皆さんと橋の手入れをしながら橋を見守り続けようと思行っています。

「『桜城橋ふき』を通して得たものは何ですか」

笑顔があふれるまちにしようと同じ志をもつ方とのつながりです。

私はまちづくりがしたいと思い、愛知県の職員になり、橋梁や高架を作ってきました。専門家としてまちづくりをしている達成感があったのですが、「橋ふき」に至るまでに、まちづくりの考え方が変わりました。

市の講演会でまちづくりの専門家の話を聞いて、橋や道路を作るだけでなく、そこに人のにぎわいを生み、人々の生活を豊かにすることが本当のまちづくりだと気づきました。

殿橋架け替えの案を知ったとき、

私はまちづくりの市民会議に参加しました。私は専門家として指導するのではなく、自分で新しい試みに挑戦することにしたのです。橋を介してにぎわいをつくろうと活動を始めたとき、手を差し伸べ、応援してくれたのは、志を同じくした、ここで出会った皆さんです。自分一人では活動は広げられない。様々な立場の方とつながることの大切さを知りました。今は多くのつながりがあります。

「今後の願いをお聞かせください」

毎月第四土曜日に行っている「桜城橋ふき」は、この十月で五十回目を迎えます。自分の時間を使って「橋ふき」に来てくださる方々には、感謝しかありません。参加してくださる方に、乙川の水をくみ、天然木を自分の手で磨く「橋ふき」を、純粋に楽しんでほしいと思っています。

この先も、まちの皆さんとの出会いを大切に、橋のイベントでにぎわいをつくり、岡崎の橋を見守っていると考えています。まちをつくり、橋を守る志を受け継ぐ仲間が増えることを願い、活動を続けていきます。



氏名
みやがわ
よういち
生年月日
昭和四十六年
一月二十四日
住所
岡崎市矢作町



保護者を教育の当事者に

福岡小学校

校長 磯村 彰久

先日ある通学班において、その班編成を、当該の保護者と総代さんに検討していただく機会をもった。学校から見える子供の姿だけでなく、地域や保護者の願いも加味して編成を考えていただいた。こうした場を設定することによって、保護者にも学校教育にかかわる一人であることを意識していただくことを願った。

ところで、これまでの私の学級・学校づくりを振り返ってみると、いかにして学級のこと、学校のことを保護者に知ってもらい、当事者として協力してもらうかを考えてきたように思う。

私にとってそのためのいちばんの手だては、三十四年前から続けている手書きの学級・校長通信『きらめき』だった。

この学級・校長通信『きらめき』に



真のリーダーとして

新香山中学校

教諭 藤渕 俊旭

Aさんは何事にも真面目で一生懸命な性格である。そして、誰に対しても分け隔てなく接し、何事も率先して取り組む生徒である。一年生のころから学級代表として前に立ち、学年の生徒や教員からの信頼も厚い。一方で、Aさんは自分の伝えたいことを自分の言葉で話すことに苦手意識をもっていた。

四月に学級組織を決める際、Aさんは学級代表になった。これまで学級代表を経験してきたAさんに、三年生ではどんな学級代表になりたいか問うと、

「学級みんなを引っ張ることができると決意をもって答えた。Aさんの様子を見て、私はAさんのよさを引き出し、自分で考え自分の言葉で伝えることができる「真のリーダー」と

なれるよう寄り添おうと決意をした。

話し合い活動では、話し合う題目の決定や司会進行など、活動のすべてを任せてみた。始めは自信なげで、戸惑っていたが、回数を重ねるうちに、言葉がつまることなく指示したり意見を述べたりするようになった。

そんなある日、Aさんの生活ノートに「伝えたいことが伝わっていない気がします」と書かれていた。自信をもって取り組んでいると思っていた私は、とても驚いた。そこで、休み時間にAさんに声をかけた。

「毎日設定する『今日のめあて』をみんなが意識してくれている感じがしない」

と困っている様子で話してくれた。

「思いをうまく伝えるために、気をつけてほしいことを短く伝えること。できなかったことを責めるのではなく、できたことを褒めること。めあてを設定した思いを熱く語ること。

この三つを意識すれば、必ずAさんの思いはみんなに伝わるよ」

と助言した。Aさんは答えを見つけたように明るい表情に変わった。

こうしてリーダーとして自信をもてるよう働きかけていく中で、Aさんの行動が変わり始めた。「今日のめあて」では、学級の様子や前日の課題を踏まえ、学級をよくしたいという思いを語るようになった。生徒会

のレクリエーション企画会が行われた日、Aさんは「レクを楽しもう」というめあてを設定した。そして、

「全校が楽しむために、三年生の自分たちから後輩に積極的に話しかけよう」

と呼びかけた。みんなのことを考え、誰にでも分け隔てなく接するAさんらしいよい声かけだと思った。

終業式、Aさんに一学期の自分はどうだったか問いかけると、

「四月よりも自信をもって学級にいろいろなことを伝えられるようになりました。」

という言葉が返ってきた。Aさん自身が自分の成長を感じていることがわかり、とてもうれしかった。

私はこれからもAさんに寄り添い続ける。「Aさんが目指す真のリーダー」となるために。



は、担任・校長としての願いだけではなく、子供の書いた言葉をそのまま載せたり、写真を掲載したりすることで、日々の子供たちの様子を保護者に伝えた。

学期末には、保護者が学級を評価した「通知表」号を発行したり、保護者から見た、学級・学校の長所・短所や願いを書いていただくコーナーを作ったりもした。

また、通信で呼びかけ、授業参観や行事以外にも保護者に教室に来ていただき、普段の授業や様々な活動のお手伝いをしていただいていた。

こうした教育の当事者として保護者に関わっていただくための手だてによって、保護者が教育課題を学校だけに任せるのではなく、逆に学校が家庭に責任を押しつけることがないように努めてきた。冒頭の通学班の編成の件も、こうした手だての一つとして考えた。

自己開示をしつつ保護者を巻き込んでいく教育活動には勇気が必要である。しかし、授業や行事、生活指導などでの反省点も含め、子供たちの状況を保護者に知らせ、学校教育にかかわる一人として協力を求めている学級・学校づくりは、今後、より一層大切になっていくと思う。

岡崎に残る

山城跡



▲岩津城跡

令和六年三月二十九日、山城跡の一つである「岩津城跡」が市の史跡に登録された。「岡崎の城」と言えば、多くの市民が「岡崎城」と答えるだろう。大河ドラマでも取り上げられたこの城は、岡崎市のシンボルといえる。しかし、岡崎には平城、平山城、陣屋を含め、百を超える城が存在していた。中には、岡崎城より古く築城された山城も複数ある。岩津城は室町時代、家康公の祖先にあたる松平泰親公によって築かれた。一度戦乱で廃城となるも、家康公によって再整備されている。主郭や虎口（城の出入口）を守る馬出しなど、中世の城郭を示す要素がほぼ全て備わっている。その希少性と、松平家由来の城である歴史的価値の高さが評価され、史跡登録に至った。この背景には、地域住民による整備・保全活動がある。以前は雑木と竹林で昼も薄暗く、人々を寄せ付けない場所になっていたと聞く。それを月二回、地道に竹を切り、人力で運び出した。そのおかげで、主郭や馬出しの位置や広さが分かり、林道には木漏れ日が差し込むようになった。

岩津城跡以外にも、地域住民による整備・保全活動が行われている山城は数多くある。地域住民を突き動かすものは、地元の文化財を残したい思いと、これからの地域の発展への願いである。その力がかつてこの地に城を建て、街づくりに尽力した先人の思いと重なる。保全活動には学区に住む子供たちが参加することもある。先人の思いの継承が地域住民の願いなのだろう。

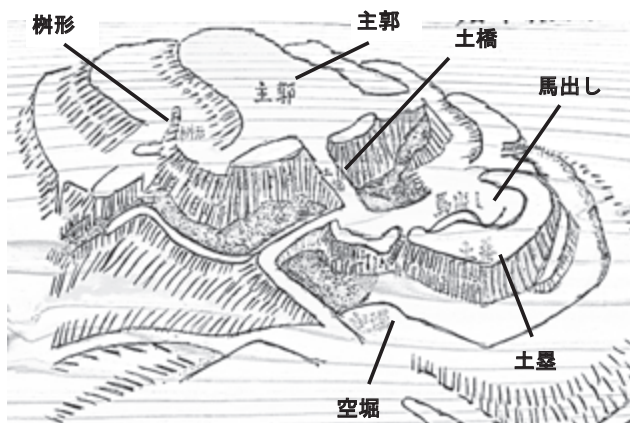
岡崎の史跡に目を向けることは、歴史的価値を学ぶだけでなく、そこに住む人々の地域への思いにふれることにつながる。一度地域の史跡に足を運んでみてはいかがだろうか。

山城とは

「地形と立地から読み解く『戦国の城』(※)」によると、山城は、南北朝時代から戦国時代の中世につくられた軍事施設であり、山全体を城地にした城だとされている。土木工事によって迷宮化された山城は、山の高低差や自然環境を利用し、少ない城兵で効率よく戦えるようになっている。

防衛戦以外にも前線の部隊に物資を補給する兵站拠点として活躍した山城もあるなど、同じ山城であっても、様々な目的でつくられている。

※(マイナビ出版、萩原さちこ著、二〇一八年)



▲岩津城 鳥瞰図

①岩津城跡



▲切り出した竹を運び出す休日ボランティア活動（岩津中学校）

⑤日近城跡

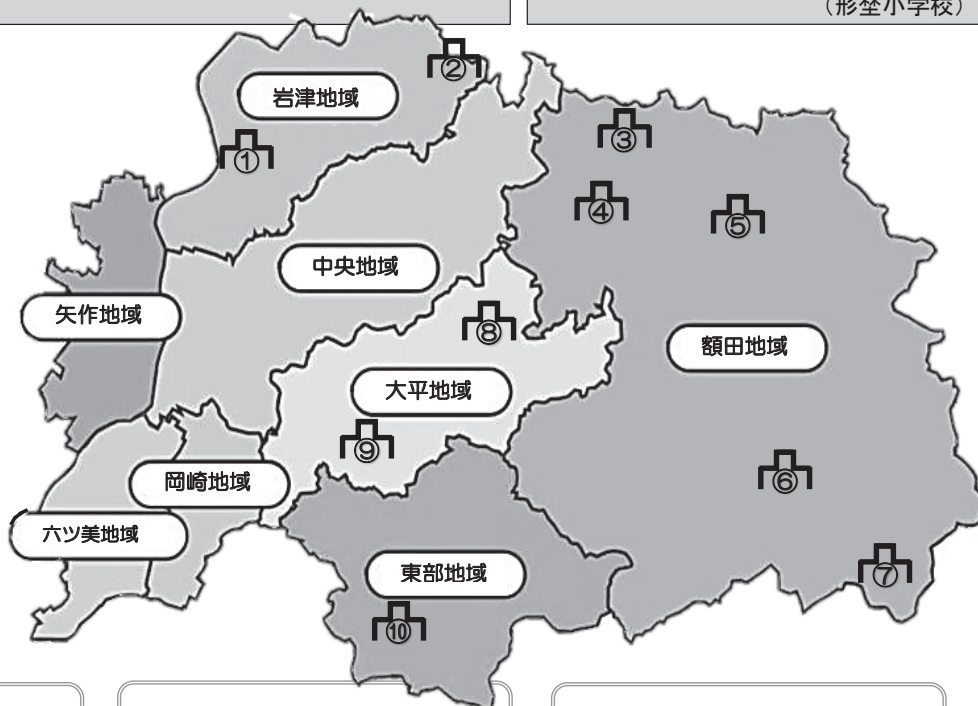


▲総合学習の時間で行った清掃活動
（形埜小学校）

～岡崎市の山城～

- ① 岩津城
- ② 日影城
- ③ 保久城
- ④ 中保久城
- ⑤ 日近城
- ⑥ 滝山城
- ⑦ 雨山城
- ⑧ 秦梨山城
- ⑨ 保母姫ヶ城
- ⑩ 山中城

（下線は写真あり）



⑩山中城跡



▲山中城跡の主郭

⑨保母姫ヶ城跡



▲保母姫ヶ城跡の
山道と主郭

⑦雨山城跡



▲雨山城跡の見学（宮崎小学校）

・円盤投 1位 福岡中 宮地 嵐俄 1年1500m 1位 六美北中 柵木 快心 2年1500m 5位 南中 尾田 祥太 出場 福岡中 坂井 俊太 3年1500m 6位 竜海中 判治 直哉 3年100m 4位 東海中 小島 昊大 200m 5位 南中 山田 翔大 出場 竜海中 伊藤 雷虎 110mH 7位 六美中 杉浦 崇義 出場 美川中 和知 志侑 走高跳 8位 六美北中 中田 洸七 走幅跳 出場 竜海中 二村 有哉 3000m 出場 北中 秋田 順哉 ○女子の部 ・円盤投 2位 翔南中 鈴木 万結 1500m 4位 六美北中 市川 紗帆 出場 新香山中 本田 結彩 2年100m 8位 新香山中 原 芽咲 3年100m 出場 矢作北中 栗山あけみ 走高跳 10位 六美北中 志村 彩 ◆第46回東海中学校総合体育大会ソフトテニス大会 ○男子シングルの部 5位 葵中 中山 絵利	◆第46回東海中学校総合体育大会卓球大会 ○男子個人の部 出場 竜海中 岡本 俊澤 ◆第46回東海中学校総合体育大会柔道大会 ○男子55kg 出場 矢作北中 岩月 颯真 ◆第78回愛知県中学校総合体育大会 ○バレーボール ・男子の部 1位(東海大会出場) 矢作中 3位(東海大会出場) 矢作北中 ○サッカー 1位(東海大会出場) 竜海中 ○陸上競技 ・男子総合 3位 六ツ美北中 ○剣道 ・男子個人の部 1位(東海大会・全国大会出場) 矢作中 中島 昊 ◆第45回愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会兼第55回JOCジュニアオリンピックU16代表選考会 ○男子個人の部 ・ジャベリックスロー 1位 南中 小田虎太郎 ◆全国都道府県対抗バレーボール大会愛知県代表選手最終選考大会 ○女子中学生の部 優秀選手賞 美川中 山本 彩希 細井 愛里
---	---

令和6年度小学校水泳大会 大会結果

【北ブロック】会場：市内小学校プール

	優勝	第2位	第3位
男子	矢作東小	広幡小	細川小
女子	矢作東小	梅園小	北野小

【南ブロック】会場：市内小学校プール

	優勝	第2位	第3位
男子	矢作南小	上地小	岡崎小
女子	岡崎小	三島小	上地小

個人成績（1位のみ）

新…大会新記録

種目	男子			女子		
	氏名	学校	記録	氏名	学校	記録
5年 50m自	杉本 晴亮	矢作北	36"9	柳楽 柚羽	矢作西	新 32"6
6年 50m自	近藤 夏史	細川	38"4	河口こはる	広幡	33"5
6年100m自	菅原陵大朗	広幡	1'08"4	齊藤 二葉	矢作東	1'17"6
6年100m平	山田 瑛太	六名	1'40"7	岩田 尚子	梅園	1'43"2
6年 50m背	辻本 理矩	矢作東	43"6	河津 祐希	北野	36"7
6年 25mバタ	横山 幸生	矢作東	16"8	鈴木妃真梨	大樹寺	17"6
6年 50m平	加賀谷太一	広幡	新 38"2	左右田結衣	矢作東	43"7
200mリレー	横山・辻本 浦・野村	矢作東	2'24"2	齊藤・中根 益田・左右田	矢作東	2'28"6

個人成績（1位のみ）

新…大会新記録

種目	男子			女子		
	氏名	学校	記録	氏名	学校	記録
5年 50m自	飯田 暁生	岡崎	37"2	高橋 奈生	三島	40"1
6年 50m自	梶川 昂	岡崎	32"5	小暮 美寿	藤川	35"4
6年100m自	吉見 龍羽	矢作南	1'10"4	大岡 千尋	六ツ美西部	1'14"2
6年100m平	塙 侑剣	小豆坂	1'21"3	坂野 愛莉	岡崎	新 1'23"0
6年 50m背	松井 峻馬	小豆坂	38"3	上田 夏帆	岡崎	37"2
6年 25mバタ	金山 知生	三島	18"0	倉田 小雪	岡崎	新 15"7
6年 50m平	松本 康佑	上地	42"3	木下 華楓	岡崎	49"1
200mリレー	内田・山田 飯田・梶川	岡崎	2'22"9	倉田・阿部 上田・坂野	岡崎	新 2'15"7

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

地域からの贈り物 栽培用温室 (平成7年)

写真提供：矢作西小学校

平成七年、矢作西小学校は開校七十周年記念式典を挙行了した。その際、緑を増やしてきた子供たちに記念事業実行委員会から栽培用温室が贈られた。

以来三十年、百周年を迎える今も、この温室を大切に活用している。花苗を育てるほか、矢作西学区が、かつてハウスイチゴの産地であったことから、その栽培にも取り組む。毎年、三年生が地域のイチゴ農家と交流し、農家の工夫や苦労、努力を実感的に学んでいる。

地域の支えがあつて、学校の教育活動が成り立っている。今も、岡崎の教育は、地域のひとこと・ものに学ぶことを大切にしている。



トンボを虫かごに入れ、捕まえた様子を嬉々として話す一年生。虫が嫌いだったとは思えないほど、冗舌な話しぶりだ。身の周りの自然は人の心を動かし、素直にさせる。子供と一緒に自然の世界へ浸っていく。きっと木々や昆虫だけでなく、教室では見ることができない特別な表情も発見することができるだろう。

ど ホ

神無月



▲関山神社秋大祭で演奏する和太鼓クラブ(藤川小)

「ぼくがやる」と四歳の子が、慣れた手つきで乙川のへりにかがみ、水をくむ。雑巾を絞る姿も自信たっぷりである。橋ふきには学生服やスーツ姿もあり、初めての参加者にも人々との談笑が広がる。まちづくりの仲間と活動を続け、好きなことだからと謙虚に、そして、目を輝かせながら宮川さんは話す。かくありたい。

次々と切り倒される竹林。しかし、ここからが大変だと地域住民の代表者は言う。竹の枝を全て切り落とし、分割し、束ねる。それを人の手で下の道路まで下ろす。整備を始めて四年が経過した。整備の先に岩津の街づくりのビジョンがある。歴史を残すことより、どう生かすかが大切だと語る。まさに温故知新。



*左利きの言い分
PHP新書



大路 直哉
¥1,210

心に残った一文
左ぎきの児童は無理に右手で書かせない。

昭和26年小学校学習指導要領国語科編(試案)には、左利き児童の学習指導に対して、上記の記載があったそうである。昭和の時代、文字を書くのは右手という意識が強く、左利きを矯正された子供も多かったと聞く。何を隠そう、私もその一人である。ボールを投げるのも、はさみを使うのも左手であるが、文字を書くのだけは右手である。時代の流れそのままに、おそらく矯正されたのであろう。様々な配慮があり、苦もなく、左手で字を書き、箸を持つ子供が存在する。違いを「個性」として捉えることで、偏見のない共生社会が実現するはずである。

*給食の謎 松丸 奨
幻冬舎新書 ¥1,056

*頭のよさは国語力で決まる 齋藤 孝
だいわ文庫 ¥880

*誰が農業を殺すのか 窪田新之助・山口亮子
新潮新書 ¥946

美合小学校 鈴木 正統